第 2016-14 号

恵みと真理のニュース

2016 年 4 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は息子の白血病を治療してくださり 全ての家族が主の喜び溢れるように導いてくださいました

私は全羅道の田舎で２男６女の中で末子で生まれました。末子だから子供の時から家族の愛を受けました。家庭の経済状況が豊かではなくても足りない学生時代を送って職場生活や結婚も平安な生活でした。

早く姉を通して神様を信じ始めましたが、世の楽しむに落ちてしまい教会に行かなくなりました。結婚して5年になて思わなく引越しをしてから

信仰の模範になる区域長に出会って教会に出て礼拝を参席して信仰が成長するようになりました。その年の秋に愛するいげんの賜物を受け、区域長の職分を受けました。

ある日、子供が急に“急性リンパ球白血病”という診断を受けました。子供が入院して治療を受ける間、5歳の子は叔母さんの家で生活をして旦那は毎日会社と病院を行って家族はばらばらになりました。しかも息子が一ヶ月ぐらい病院で白血病の細胞を除去するための抗癌治療の'関して誘導'を行う過程で予期しなかったことが発生してより大きな苦しみを味わうようになりました。当時26ヶ月になった息子が検査を受けるなかで過ちが二回もあって神経を触ってしまって下半身が麻痺され起きられない状況になりました。

病院では“原因も知らない。見てみよう。”と誠意のない話をしました。希望的な話を聞かなくて血が渇く骨が溶ける息をすることができないくらい辛い時間を送りました。

それだけではなかったです。 抗がん剤の投与と樹液の連結のために右胸部の皮下に植えておいた中心静脈がひっくり返って二度と全身麻酔の後、再手術を受けなければならない状況になりました。そして、抗癌剤の副作用で斜視になって一ヶ月間心が恐ろしかったです。同じ入院室で治療を受けている人は経験しない大変な事を経験して涙が止まらず苦痛の時間を過ごしました。

その中で教区長と勧士と執事達が期間を決めて祈ってくださって大きい慰めと力になりました。牧師も祈ってくださり多くの方々が私の子供ための祈ってくださいました。アンヤン聖殿で区域長として支えている姉と義兄とおいたちをはじめ親戚も祈ってくださいました。そして、礼拝で説教を聴き祈りと賛美する中で全ての恐れがなくなり平安になり神様が子を治療してくださる確信が出来ました。神様の助けを信じて祈って待ちました。どころがまもなく子供が麻痺された足の神経が少しずつ完全な状態にもどりはしめました。そして、歩けるようになりました。引っくり返った中心静脈も手術をしなくて元に戻りました。子供が持っている‘MLL’という癌細胞の遺伝子がなくなって今は抗癌剤治療が終わってからすぐ 骨髄移植を準備しなければならないと医者がおっしゃったが、移植をする前にそのガン細胞が完全に消滅するという驚くべき奇跡が起きました。ハレルヤ！

子供の病気によって家庭に大きい変化されました。酒を大好きだった旦那が酒を止める決心をして神様にも約束して酒を止めました。そして、かみさまに対する信仰も深くなり昨年に私と執事の職分も受けました。毎日寝ている子供の足の前で膝をまずいて神様に祈る旦那の姿を見ながら感謝と賛美を捧げました。

神様は私の苦難を有益になってくださいました。子供の名前も栄光とヨハンという福ある名前で変えてくださいました。2年が超える治療を受けているヨハンがもうすぐ苦痛だった治療の過程を全て終わります。その間白血病という病名は家族の口から離れた単語になり病気になる前の生活に戻りました。 ヨハンと私達の夫婦もいつも笑いながら生活しているから周りの人達はヨハンが完治されたと思っていると話します。終わりがないような長い苦痛の時間が終わりそうです。神様が与えてくださった治療の恵を誇り福音を伝えるように導く神様に感謝を捧げます。

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ41：10）神様がくださる御言葉が私の心の中に深く根付くなら慰めと励ましになり信仰と希望で祈るようにしてくださいました。今、1年間85歳になる母と共に住んでいるが以前は酷く福音を拒否し、神様を不信した母がイエス様を受け入れいつも祈りと賛美を捧げます。苦難の時間をよく乗り越えたら神様が大きい福を与えてくださいました。今も祈りの課題が多いですがこれも答えてくださる神様の恵みと愛を考えまず神様に感謝捧げます。 神様に全ての栄光を捧げ、精神的なメンターであり同役者である姉と長い間祈ってくださった伝道士と区域長と聖徒に主の恵と愛がいつもあるように祈ります。この証が病床についている聖徒と家族に大きい慰めになり治療の神様に対する信仰と希望が与えられるように切に祈ります。

［信仰コラム］

誰の罪のためですか?

″…イエスは答えられた、「本人が罪を犯したのでもなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。…″（ヨハネによる福音書　9:1-7）

生まれた時から盲人のなった人がエルサレムのある道端に座って物乞いしているが、弟子たちの中に誰か、イエス様に″この人が盲人に生まれたのが、誰の罪のためですか? この人の罪のためですか? なければ彼の親ですか?″と質問しました。 すると、イエス様が″この人や彼の両親が罪を犯したことのためではなく、彼から神様のお仕事を示そうとすることだ。″して、唾を吐いて泥を勝って盲人の目に塗った後″シルロアム池に行って洗いなさい。″しました。 盲人にイエスの言葉の通り行ったらすぐに目が明るくなりました。

この事件の記録には神霊のメッセージがあります。

第一は、様々な問題と苦難を神様のお仕事を示す機会にしろとメッセージがあります。

人生に起きているすべての悲しみと苦痛の最初の猿人は人類の先祖アダムからとって名付けたものです。アダムが犯罪後、人間の歴史は時期、嫉妬、殺人、戦争、自然災害、疾病などによって汚されており、人生と苦難はいつも一緒にしてきました。 私たちが分からなければならないことは人が経験しているあらゆる苦難を誰罪のためと単純に区切ったり、規定することができないという事実です。 その原因が概ね複合的性格を持っていたり、私たちの理解が及ばないものがあるからです。 イエスは質問に答え、罪と苦難の関係を扱ってもらわなくて代わりに苦難の中にいる人に対して神様がどのような仕事を行うかを示す機会にさせるべきだと言いました。 旧約聖書ヨブ記に登場するヨブは深刻な疾病と苦難を経験しながらも神様を恨んだり神様を意志する信仰を捨てず、結局、讒訴するサタンを勝って神の栄光を向けるようになりました。

第二は、すべての人は目が開かれなければならず、このため、イエス様を会わなければならないというメッセージがあります。

本文に登場する人は生まれてから、盲人のでした。 ’生まれた時から盲人の’という言葉は人間の実状を形容する言葉でもあります。 精神的にはすべての人が生まれてから、盲人のなった人です。 そのために万物の存在の根源と理由と目的について完全な理解や知識を持つことができません。 人がどうして生きてどこに行くのかを知りません。 人は食べるために生きて、生きるために食べるだけで、死ぬのがいやで、恐れたら長く生きるためにもがくます。 しかし、イエス・キリストを信じれば、暗中模索が終わります。先に述べたすべての答えが明白になります。 神様の恩を着て霊の眼がひかいた人になった私たちがすべきことは心雪が盲人のなった人たちを目が開かれても、になるように神様ともに引き渡すことです。 誰でもイエス・キリストを信じたら神様が知恵と啓示の令をくださって神様を知り合いになります。

第三は、イエスの行動と指示に対する盲人の反応や態度を見習えとメッセージがあります。

つばと泥にいかなる効力があったことがありません。権能はイエス様から流れ出るのです。 イエスさまがただ、言葉でその盲人を治すことができるけどうちの今回の場合はつばと泥という手段を使用しただけです。盲人に取った態度は非常に驚き、素晴らしいです。彼は、イエス様が唾を吐いて泥を勝って彼の目に塗った時、気持ちを傷つけたり、反発しないしました。イエスの弟子たちが質問する言葉を聞く、彼の心情はにがにがして悲痛な心情になったはずです。 しかし、そこにわが主イエスがいたためにその盲人にはむしろ幸運の瞬間になりました。 彼がキリスト様の言葉を聞いて信頼を持っており、その言葉にそのまま直ちに追従したので実に夢のようなことが彼に起きました。彼は影を脱し、光のうち、入りました。 肉体的だけではなく、精神的にもそうしました。

皆さんは他の人やあるいは皆さん自身が直面している問題を神様のお仕事を示す機会になるようにすることを願います。 皆さんに現れた神様の愛と能力を多くの人々に見せながら証言する証人になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

絶対的判断基準と適用

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

事物を認識して判断する能力は私たちの生に重大な影響と結果をもたらします。 このような認識と判断に影響を及ぼす要素が二つあります。一つは私たちの身の機能でまた他の一つは判断基準です。 私たちは多くの身体の機関の機能によって事物を認識して判断します。 そして経験、慣習、制度、規約、法などを基準で事物を認識して判断します。 このようなものは絶対的な判断基準ではないです。 クリスチャンには絶対的な判断基準があります。 それは聖書です。 聖書は神様の約束と命令が啓示されている本なので聖書を神様のお言葉と呼びます。だからクリスチャンと言うのはその絶対的な基準で事物を認識して判断する人です。 生の真正な成功と失敗はその絶対的な基準に対する知識の深さと適用の範囲に関わっています。 聖書にはこのような事実を説明して証明する事件で満たされています。 誤った判断で悲劇的結末をもたらした人々に関するお話と正しい判断で光栄と勝利を獲得した人々に関するお話です。今日は私たちがこのような事実を説明して証明する事件をよく見ることによって神霊な教訓を得ようとします。

旧約聖書の民数記 13 章と 14 章に記録されたガナアン地を探った人々に関する事件をよく見ます。
エジプトから解放されて出たイスラエル民は神様が彼らの先祖に約束してまたお許しされたガナアン地を向けて行進しました。 紆余曲折あげくガナアンの南部の境目であるバラン荒野にカデスバネア地域に至りました。 モセがこちらで１２人の斥候を派遣しました。 斥候はこちらから徐々に北上してヘブロン、ハソルを経てガナアンの最北方の境界であるルホブまでガナアン全地を 40 日にわたって探ってカデスバネアに帰って来ました。 ガナアン地が果して乳と蜂蜜が流れる地という事実を確認して感じたことは１２人が皆等しかったです。 しかしガナアン地を占領する仕事に対しては見解が違いました。
ヨシュアとカレブを除いた十人の斥候が明らかにした見解と判断はこのようでした。 “その地の居民は強くて城邑は堅固で甚だしく大きいのみならずそこでアナクの子孫を見た。” と言いました。 そして結論するのを “「わたしたちはその民のところへ攻めのぼることはできません。彼らはわたしたちよりも強いからです」。
そして彼らはその探った地のことを、イスラエルの人々に悪く言いふらして言った、「わたしたちが行き巡って探った地は、そこに住む者を滅ぼす地です。またその所でわたしたちが見た民はみな背の高い人々です。わたしたちはまたそこで、ネピリムから出たアナクの子孫ネピリムを見ました。わたしたちには自分が、いなごのように思われ、また彼らにも、そう見えたに違いありません」”（民数記 13:31～33）としました。

一方にヨシュアとカレブが明らかにした見解と判断はこのようでした。 モセの前で民を安頓させて言うのを “私たちがすぐ上がってその地を取ると充分に勝とう” しました。 十人の斥候とヨシュアとカレブの見解を比べて見ましょう。 科学的分析という側面では現実状況に対する見解が同じでした。 1) その地居民は強い。 2) 城邑は堅固だ。 3) 城邑が甚だしく大きい。 4) 身の丈が壮大であると彼らの情報を分析して見解を明らかにしました。 ところで信仰的な側面での見解はお互いに相反しました。 十人の斥候 は 1) 私たちは自ら見るのにイナゴのようである。 2) 彼らの見るにも彼のようだろう。 3) 私たちは充分に上がってその民を打つことができなかろうしました。 一方にヨシュアとカレブは 1) 私たちがすぐ上がろう。 2) その地を取ろう。 3) 充分に勝つとしました。
民は 十人の斥候の否定的な報告をきいて一斉に音高めて泣き始めました。 彼らは絶望感を感じながら夜更かしに嘆きながら泣き叫びました。 “私たちがエジプト地で死んだとかこの荒野で死んだら良かった”というものを言いました。 結局彼らの言葉の通りになってしまいました。 十人の斥候は神様の懲罰を受けてたまらなかったです。 民の中にヨシュアとカレブを除いた 20 歳以上の人々は皆が荒野で 40 年を迷ってから死にました。 民は言うのを “なにゆえ、主はわたしたちをこの地に連れてきて、つるぎに倒れさせ、またわたしたちの妻子をえじきとされるのであろうか。エジプトに帰る方が、むしろ良いではないか」”（民数記 14:3）としました。 神様の善良なみ旨をこのように歪曲して悪評するまで至るようになれば再起不能の状態になってしまいます。 民はお互いに言うのを “私たちが一り長官を立ててエジプトに帰ろう。” としました。 神様が言い付けたお言葉を無視と他の代案を立てることは愚かの極致です。 神様があたえた情報だけで満足しない人は不信仰的な報告に耳を傾けるようになって心に混乱を経験するようになります。

聖書は幸せで成功的な生を生きて行く最上の情報を提供しています。
全能な神様があたえる情報なので完全無欠であるからです。 情報そのものが私たちを興らせるとか亡びさせないです。 この情報に対する分別と選択と決断がそこに相応する結果をもたらします。 各種の情報を正しく分別して判断するための原則があります。この原則と言うのは絶対的な基準と判断するのです神様のお言葉が判断の絶対的な基準です。 イスラエル民は絶対的基準を投げ捨てたから肉体に属した情報、不信仰的な情報を受け入れるようになりました。その結果で 1) 情緒的な混沌におちいりました。 2) リーダーを恨みました。 3) 神様を恨みました。 4) 否定的な予測をしました。 5) 亡びる道を選ぶようになりました。
事態がこんなに進むことを見たヨシュアとカレブがその服を裂きました。
聖書で服を裂く行為はたいてい心に感じる激しい悲しさや途方もない苦痛を表現する象徴的な行為です。 ヨシュアとカレブは民の考えと態度を直すため、信仰を持つために叫びました。 先ずガナアンに対する情報を神様のお言葉を基準にして判断するように促がしました。 “わたしたちをその地に導いて行って、それをわたしたちにくださるでしょう。それは乳と蜜の流れている地です。” と叫びました。 そしてガナアンに入るのにおける現実的問題を解決する信仰的な方法を提示しました。

神様に喜ばれるのが最上の方策だと知らせました。 そして引き継いでどのようにするのがエホバを嬉しくすることなのかを言いました。
“もっぱらエホバを逆らわないでください。” としました。 ヨシュアとカレブは “その地の民を恐れないでください。” と言いました。 その理由を二つで説明しました。 “彼らは私たちのご飯です。” したし、“彼らの保護者は彼らから離れ去りました。” と言いました。 ガナアン居民において彼らの保護者は人々の手で作った偶像でした。 その偶像の背後にはサタンがあります。 サタンはやみの権勢を持った者です。 光が入って来れば暗さが退くように光である神様を頼って進む前でサタンは退くものと決まっています。 そしてまた言うのを “エホバは私たちと一緒にいらっしゃいます。” としました。
神様のお言葉を万事を判断する絶対的な基準になる人はヨシュアとカレブのように問題の前で私たちが取らなければならない態度を正確に言うようになります。 “神様を喜ばれるようにしてください。” “問題を恐れないでください。” と言うようになります。 神様はモセを通じておっしゃるのを “わたしの栄光と、わたしがエジプトと荒野で行ったしるしを見ながら、このように十度もわたしを試みて、わたしの声に聞きしたがわなかった人々はひとりも、わたしがかつて彼らの先祖たちに与えると誓った地を見ないであろう。またわたしを侮った人々も、それを見ないであろう。ただし、わたしのしもべカレブは違った心をもっていて、わたしに完全に従ったので、わたしは彼が行ってきた地に彼を導き入れるであろう。彼の子孫はそれを所有するにいたるであろう”（民数記 14:22～24）としました。 十人の斥候は神様の刑罰を受けて災いで死にました。 ヨシュアとカレブは後日イスラエル子孫を乳と蜂蜜が流れるガナアン地で導きました。

本文を読んだ後　今日のお言葉の核心を整理します。
“ただ強く、また雄々しくあって、わたしのしもべモーセがあなたに命じた律法をことごとく守って行い、これを離れて右にも左にも曲ってはならない。それはすべてあなたが行くところで、勝利を得るためである。この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにしるされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。”（ ヨシュア記, 1:7,8）人が誤った判断する最大の原因は判断の基準が間違ったからです。 神様のお言葉が判断の基準にならなければなりません。 神様のお言葉は命令と約束になっています。 神様の約束と命令を無視する態度は神様を見下す行為で見なされます。私たちが神様のお言葉をすべての事の判断基準で適用すれば神様が喜びます。 神様がともになさいます。 神様が約束を成します。 神様は自分の言葉に対して 100% 責任を負います。 真実と全能は永遠な神様の属性です。

愛する聖徒の皆さんは “私には神様のお言葉がすべての事の絶対的な判断の基準なのでこれをいつも適用しながら生きて行きます。” と言えるように願いします。